

学校運営協議会 活動報告書（第2学期）

学校名 芦屋市立宮川小学校

校長名 浦山 佳代

開催日 令和7年11月12日（水）

出席者 運営委員10名（定数14名）校長・教頭

1 今回の協議会での主な内容（議題・承認事項・協議事項など）

- ・校長より、今年度の本校の全国学力・学習状況調査結果についての報告があった。
- ・芦屋市の目指す教育のあり方及び本校での取り組みについての報告があった。
- ・それを受けて宮小の子どもたちに必要な学力等について協議をした。

2 委員から出された主な意見や感想

- ・子どもたちのスマホ利用について芦屋市では調査をしているのか。
- ・スマホを持つことで小学生でも、トラブルにも巻き込まれることがあることに驚いている。昔は親に友達関係がよく知られていたが、今は見えないから心配。
- ・子供達がスマホのトラブルを抱えた時に、相談できる大人でいたい。相談する体制を作ってあげたい。
- ・スマホのトラブル対策として、保護者が制限をかけることができる。家庭での対策が大事。
- ・インクルーシブ教育は芦屋の誇るべきものだが、保護者はそれについてどのように理解しているのか。どの程度理解しているのか。
- ・子ども同士のトラブルについては、保護者に知らせて欲しい。
- ・宮小祭りの日、準備、片付け、給食、掃除の様子をずっと見せてもらって、とっても忙しいということを感じた。主体的な学びやギガスクールなどは時間の確保が難しいのではないかな。
- ・キッズスクエアを通して、この10年で子どもたち同士の関わりが変わってきているのを感じる。最初のころは、1年から6年が同じところで一緒に遊ぶことができた。この頃は、誰もリーダーシップを取らない。学年ごとにバラバラに遊んでいる。また、子どもたち同士でケンカをするが、エスカレートしてしまう。
- ・キッズスクエアは、異学年の交流が本来は目的。
- ・ケンカをする経験も必要。

3 協議内容を受けての学校の今後の取組

- ・インクルーシブ教育についての保護者へ周知については、積極的にしていく必要がある。

4 当日の会議の様子

